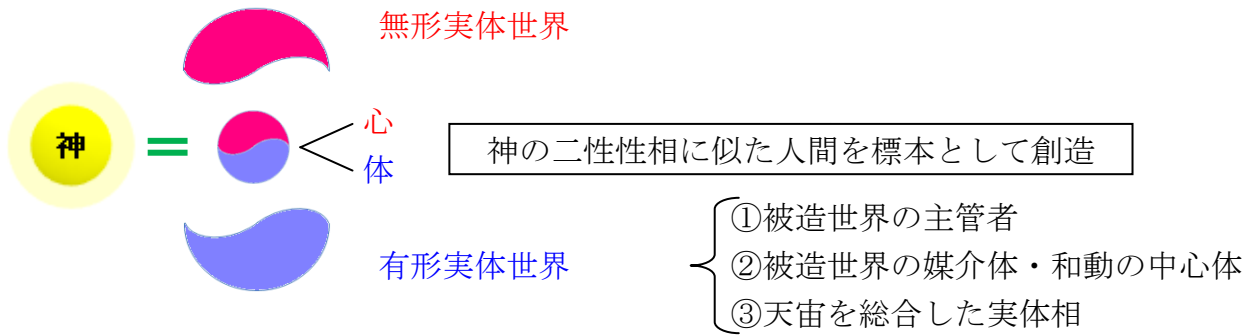
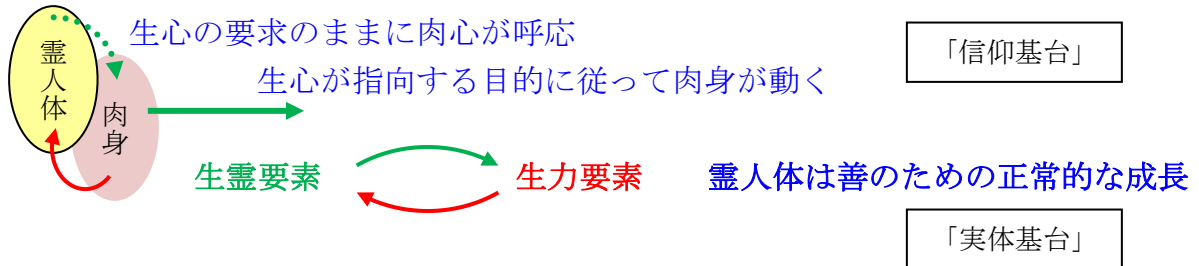


I. 被造世界における人間の位置



後に創造なさる人間の性相と形状を
実体的に展開され、先に被造世界を創造なさっていた。

II. (霊人体) 善のための正常的な成長について



真理で生心が要求するものを悟り、そのとおりに実践 = 人間責任分担完遂
⇒ 生霊要素と生力要素が互いに善の目的のための授受作用

III. 霊人体のすべての感性も肉身生活の中で、肉身との相対的な関係によって育成

地上で完成され神の愛を完全に体恤 (神の愛を完全に呼吸できる)

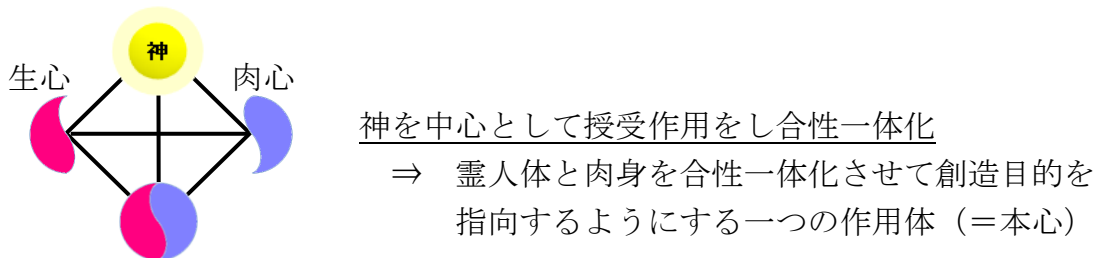
⇒ 霊人体も肉身を脱いだのちに、神の愛を完全に体恤できるようになる

◎霊人体のすべての素性は肉身のある間に形成 (悪化、善化)

犯罪行為によって生じた過ちにより、この愛を完全に呼吸できなくなった霊人体

⇒ 完全な愛の主体でいらっしゃる神の前に立つことがかえって苦痛に

IV. 生心と肉心との関係から見た人間の心



このように創造された本性により、**人間の心は常に自分が善だと思ふものを指向** (=良心)

But 墮落人間は...

善の絶対的基準を分からず、良心の絶対的基準も立てられない

⇒ 善の基準を異にするにつれ、良心の基準も異なる

∴ 良心を主張する人々のあいだにもよく闘争がおこるように